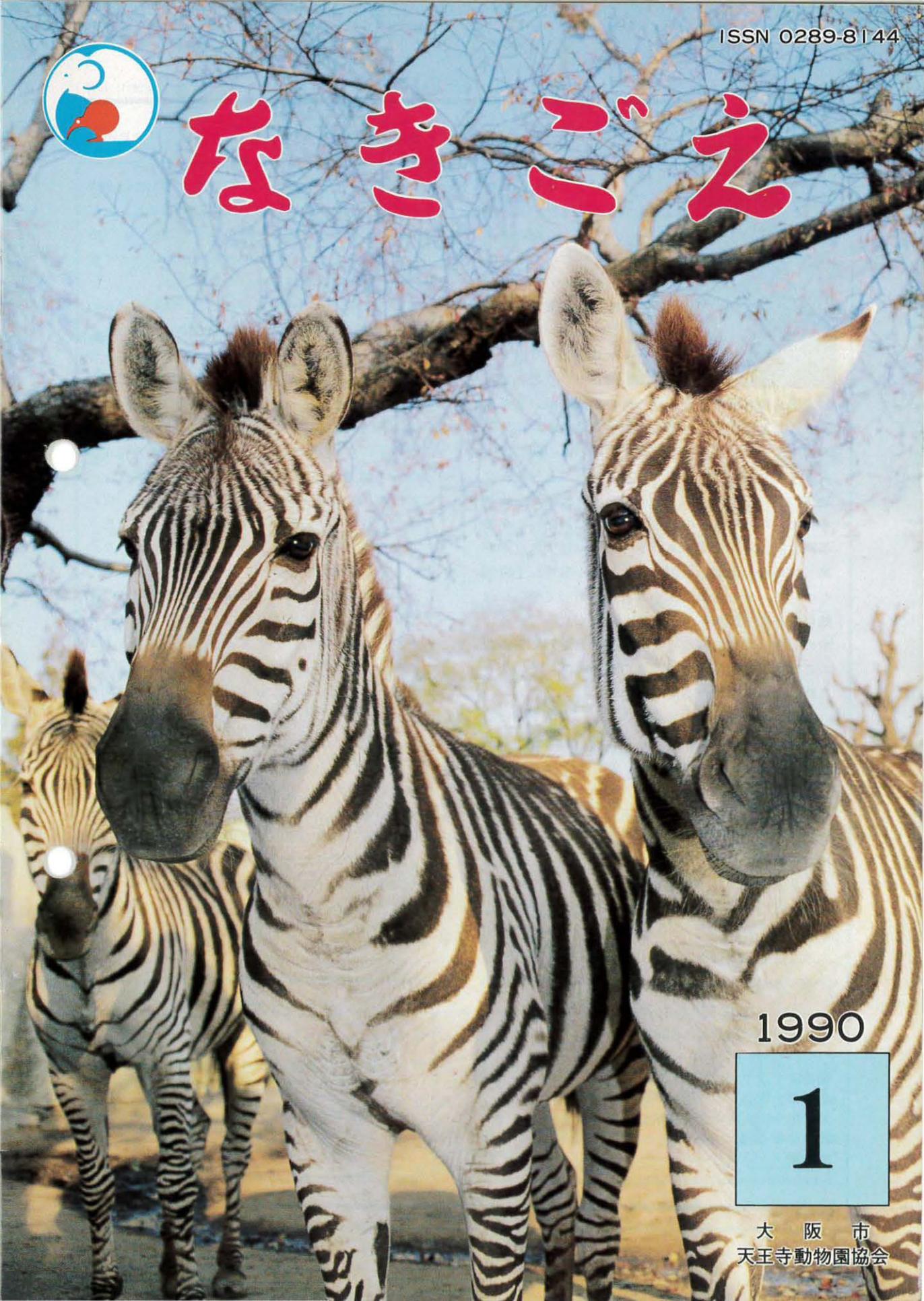




なきごえ



1990

1

大阪市
天王寺動物園協会



菊池 可

もう5年も前になるだろうか。その年に大々的な東京公演ということで私達はその準備のため半年程前から東京入りをしてきた。私は事務所兼寝泊まり出来る所をということで不動産屋を歩き回りとうとう軒の平屋の旧い家を見つけることが出来た。そこは新宿からバスで10分程の所で周りはビルが立ち並びその旧い家の前には巨大なマンションがそびえていた。ちょっと行くと交通量の多い牛込交差点がある。その家は他から比べるとまったく場違いの雰囲気を持っていた。まず格子戸を開けると玄関がありそのわきには大きな木が繁っている。部屋には雨戸がありしかも珍しく縁側もついている。おまけに小さな庭があつてそこには他の家をも圧倒する大きなびわの木が立っている。木のわきには椿、桜などが細いけれど立っている。ここは本当に新宿かと思う程の静けさだ。その小さな庭に又小さな池があった。

私達はこの家が大いに気に入った。玄関を開けるとすぐに車の騒音が飛びこんでくる。しかし戸を開めると静寂。

ある日のことである。仲間の一人が素頓狂な叫び声をあげた。「来て！カエルよ」 えっとばかり五人の中年に近い男女が縁側に殺到した。「ほら」得意そうに指さす方向を見ると、カエルが二匹じつとこちらを見ているではないか。カエル二匹と人間様のしばしのにらみ合い。もちろんその均衡を破ったのは我々だ。

「こんなビルばかりなのにどこから来たのかしら」

「牛込の交差点を渡ったのかしらね。」「信号の色わかったのかな」と訳のわからないことを云っている。田舎ならまだしもこんな都会でカエルに出会うなんて……。それ以来忙しい仕事の中でカエルは私達にほのぼのとしたものをもたらしてくれた。「カエルは元気？」というのが朝のあいさつにとって変わった。そんな日が何日続いたのだろうか。

「ねえ来て！池にカエルのたまご」又もや誰かの叫び声、私達は縁側をとり下り池の中をのぞいた。ほんとに！池の中にびっしりカエルの卵が産みつけられている。特有のカンテン状の中に無数のポツポツした黒い点がある。“あの二匹夫婦だったのね”一人が押さえた声でつぶやいた。ふと見るとびわの木の下にカエルがじつとこちらをにらんでいる。

「ほらお母さんよ」私達はそつと池から離れた。この日から毎日池を見るのが楽しみとなった。疲れて帰ってもカエルの卵が日々成長しているかと思うと心がなごむのだ。そして日が立つにつれ小さな点が大きくなりやがてカンテンを破っておたまじゃくしが水の中で泳ぎ始めた、私達はおたまじゃくしがカエルとなってこの池から庭にとび出す日を今か今かと見守っていた。そしてある日……。小さなカエルが親ガエルのそばに寄りそっていた。一匹又一匹数え切れない程。そして庭をびよんびよんはね回りそれもやがていつのまにか一匹もいなくなってしまう。親ガエルもいっしょに。いったいどこに行ってしまったのだろうか、この人混みと車の中で無事生きていけるのだろうか。

そしてあれから五年たった今。私は西の大都会大阪にいる。“かまくら”(ぶなの木を題材にした音楽劇)の公演準備のためだ。市内の林立したビルの谷間や高速道路の下を歩くと、なぜだろうか、必ずあのカエルたちのことを思い出す。

(民族歌舞団わらび座)

なぎごえ1月号もくじ

動物と私 2
 “ヒョウの親子” 3
 動物園グラフ・動物園日記 4-5
 馬の郷土玩具 6-7
 天然記念物宮崎の都井御崎野生馬を見る 8-9
 獣医室から ⑤ 10
 動物園ニュース 11

表紙の写真説明

“グラントシマウマ”

今年は午年ですが、私達は地球上で少なくなった野生馬です。

(撮影：大野 尊信)

表紙		撮影者名	
1	ボアコンストラクター 大野 尊信	7	コアラ 長瀬 健二郎
2	キカンジュー 大川 光雄	8	タンチョウの親子 樽本 勲
3	ミカツキハシビロガモ 宮下 実	9	アルダブラゾウガメ 大野 尊信
4	オウギアイサ 野口 秀高	10	ラマ 大川 光雄
5	ホンドギツネ 森本 委利	11	フクロウ 榊原 安昭
6	ナベヅル 榊原 安昭	12	レッサーパンダ 森本 委利
動物と私		執筆者名	
1	山岸 哲 大阪市立大学教授	7	北浦 賢次 青年海外協力隊員
2	赤木 智香子 大阪府立大学学生	8	正置 友子 児童文学評論家
3	与名 正三 フォトグラファー	9	岩本 泉治 大台ヶ原管理事務所
4	奥村 彪生 伝承料理研究家	10	森 茂明 民宿経営
5	又野 末春 特別天然記念ツル保護監視員	11	稲葉 初代 主婦
6		12	宇江 敏勝 作家・林業
お目見え動物		撮影者名	
1	こんなに大きくなりました 樽本 勲	7	キーウィ(愛称キオト・めす) 大野 尊信
2	昨年3頭目のエランド誕生 中垣 圭史	8	ハクガンの赤ちゃん誕生 森本 委利
3	トカラヤギの赤ちゃん誕生 赤松 建	9	シカ舎はバンビで一杯 宮下 実
4	ブラックバックのベビーラッシュ 山下 賢二	10	ヒョウの赤ちゃん 井手 譲二
5	イワトビペンギンの入園 土谷 正道	11	珍らしいカモの繁殖 大川 光雄
6	フクロギツネの親仔 大川 光雄	12	レニングラード動物園からきたシロフクロウ 森本 委利
動物園グラフ		撮影者名	
1	己年のヘビたち 大野 尊信	7	メルボルン動物園でのコアラ研修 コアラチーム
2	アメリカバクに赤ちゃん誕生 野口 秀高	8	ベビーラッシュたけなわ 榊原 安昭
3	バードケージの鳥達 土谷 正道	9	サマースクール特集 森本 委利
4	動物園で楽しい一日を 早川 篤	10	サイの搬出作戦 樽本 勲
5	キジ舎は繁殖シーズン 野口 秀高	11	コアラ八態 コアラチーム
6	鳥の楽園、繁殖大作戦 大野 尊信	12	レッサーパンダがやってきた 中川 哲男

特別寄稿

1 己の郷土玩具	平田 嘉一 (郷土玩具蒐集家「近畿おもちゃ通信」編集発行人)
1 日本のヘビ	柴田 保彦 (大阪市立自然史博物館)
5 アメリカの動物園の教育活動	成島 悦雄 (上野動物園飼育課主査衛生第一係)
7 コアラは何を食べるのが好きか	グライアム・G・ジョージ (ビクトリア動物評議会)
9 オオマダラキーウィの繁殖	エリック・K・フォックス (オトロハンガ動物学協会)
9 自然認識と生態的展示	若生 謙司 (日本展示学会会員)
10 公園紹介～名護自然動植物公園～	石井 力 (名護自然動植物公園部長)
12 白神山地の動物	鎌田 考一 (秋田・白神山地ブナ原生林を守る会理事長)

連載

1 キーパズ・アイ④⑥ 早川 篤・芝野利夫	3 ケンちゃんの好きやねん動物園⑨ 松葉 健
5 キーパズ・アイ④⑦ 岡田博之・久田治信	7 ケンちゃんの好きやねん動物園⑩ 松葉 健
9 キーパズ・アイ④⑧ 早川 篤	11 ケンちゃんの好きやねん動物園⑪ 松葉 健
2 獣医室から④⑧ 森本委利	6 動物園なんでも相談室 中川哲男
4 獣医室から④⑨ 森本委利	10 動物園なんでも相談室 大野尊信
8 獣医室から④⑩ 榊原安昭	

飼育観察記事

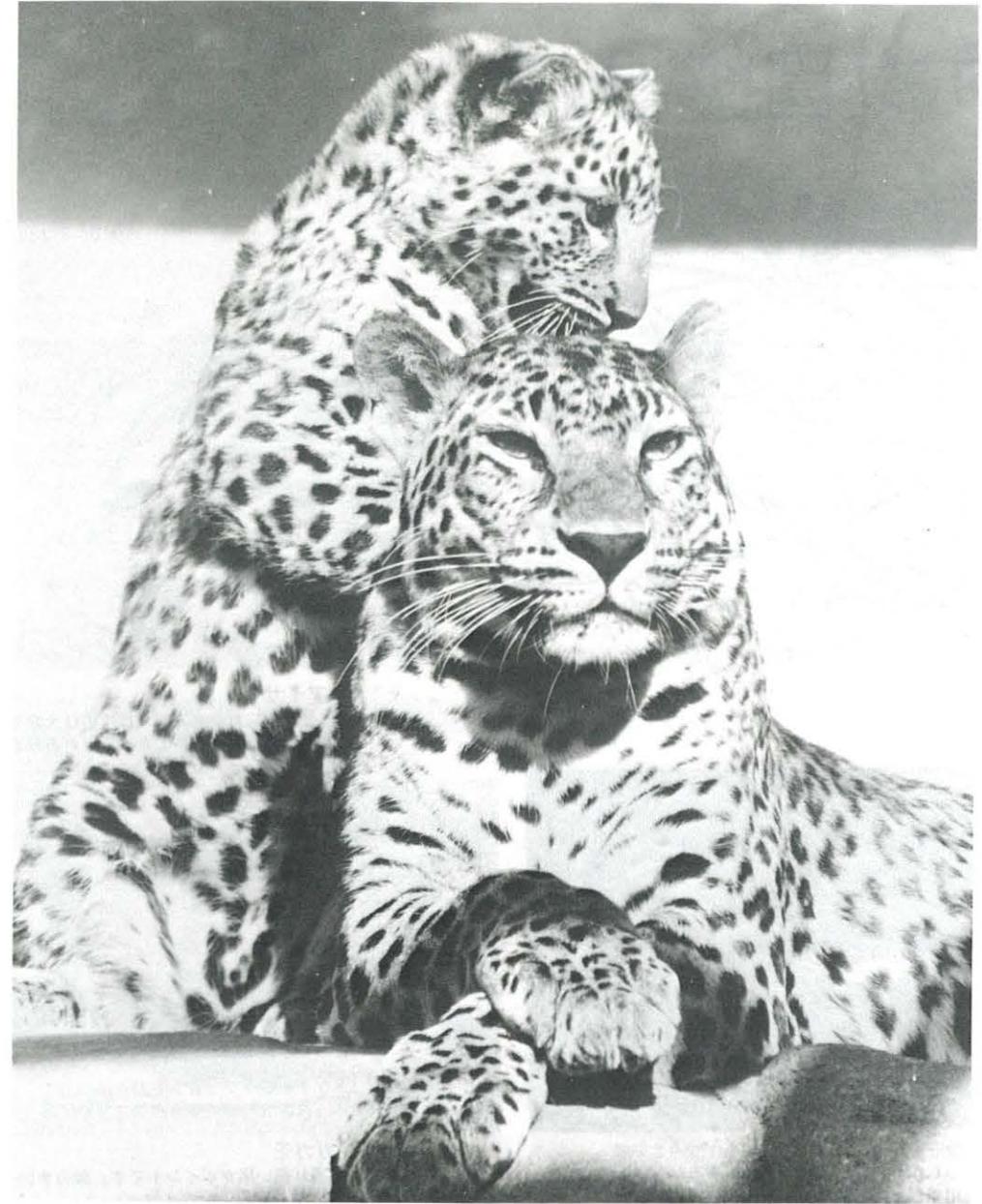
2 キジの飼育	早川 篤
2 アメリカバクを飼って	野口 秀高
4 クマを飼育して	土谷 正道
5 アシカの飼育	東 正宏
6 稀少動物の血統登録－危機に瀕するシシオザルの現状について－	宮下 実
11 バードケージ (鳥の楽園) における水禽の繁殖状況について	三浦 正明
11 コアラを飼育して	早川 篤
12 キジの飼育と繁殖雑感	西田 俊広
12 クロサイの繁殖作戦	

紀行・記録・その他

3 天王寺動物園のコアラ舎－ディスプレイについて－	樽本 勲
3 天王寺動物園のユーカリ	中川哲男
4 中国の動物園を旅して	中川哲男
6 動物園の思い出	土井良彦
7 コアラが来園して	コアラチーム
8 動物古名立ち話	中川哲男
8 動物園をもっと楽しくするために	大野尊信
10 新人獣医奮闘記	竹田正人

動物園日記	1～12	森本委利
-------	------	------

動物園ニュース	1～12	榊原安昭
---------	------	------



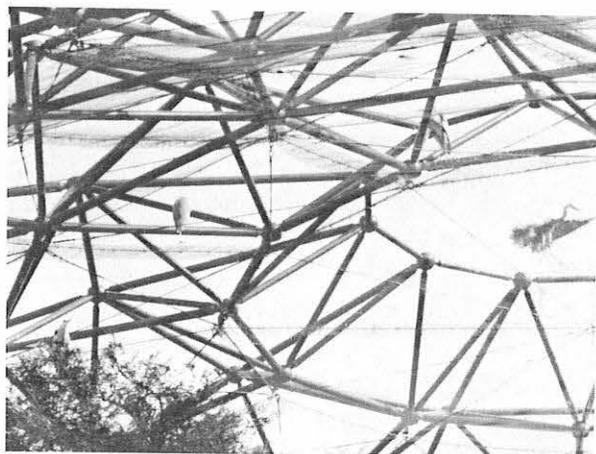
“ヒョウの親子”

昨年7月14日生まれのヒョウの赤ちゃんはこんなに大きくなりました。

母親にじゃれつく姿はガラス張りヒョウ舎でも人気を独占しています。

(撮影：野口 秀高)

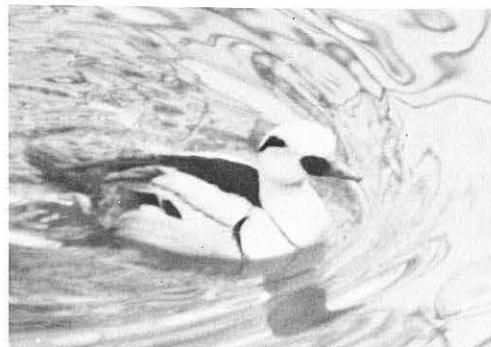
動物園グラフ



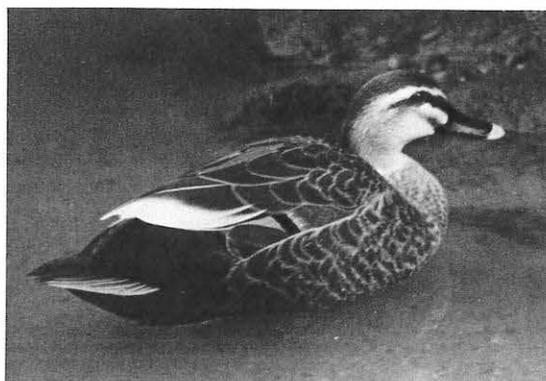
アオサギ
上の3羽は外の鳥です。仲間にさそわれてくるのでしょうか。

“バードウォッチングに行く前に”
日本一のバードケージはウォッチングの練習にぴったりです。冬は水鳥たちが最も美しくなる季節です。大阪近郊でも観察できる水鳥達を紹介しましょう。

(撮影：大野 尊 信)



ミコアイサ
一度見たら忘れませんが、探すのは大変です。伊丹の昆陽池で観察できることがあります。



カルガモ
すっかり馴みになりました。留鳥で少しきれいな川やため池で見られます。園内のカモシカ園の池にも20羽以上飛んできます。



オナガガモ
文字通り長い尾がポイントです。数の多い種類の一つです。

10・11月の動物園日記

- 10/29. ブラックバックのオスの骨折手術を行いました。
- 出産のためホッキョクグマのメスを産室に閉じ込めました。
- 10/31. 本年初めてのオオミズナギドリを1羽保護しました。
- クイーンズランド野生生物局次長のレイバリー氏が来園されました。
- 11/ 1. チュウゴクオオカミ(黒変種)が死亡しました。
- 11/ 2. 近畿地区動物園獣医師勉強会を開催しました。

- 11/ 5. 秋の動物園まつりが閉幕しました。
- 11/ 6. 第7次大阪市・上海市動物交流のため、顧金根副園長ほか3名の上海動物交流団が来阪され、当園を見学されました。
- 11/ 7. 上海動物交流団と飼育技術交流会が開催されました。
- 11/ 8. 上海動物園交流動物贈呈式が催され、レッサーパンダ一番とクロトキ4羽が上海市の上海動物園から贈られました。
- 第5回天王寺動物園写真コンクールの審査会が行われました。
- 11/ 9. 保護で元気を回復したオオミズナギドリ5羽を自然復帰させました。



ハシビロガモ
体の割に大きな口ばし、見つけ易いカモです。



オシドリ
山間部の池に渡ってきます。大阪では河内長野の滝畑ダムが有名です。



ホシハジロ
この鳥も数多く渡ってくるカモです。少し頭でっかちにみえるかな。(左の鳥、右はカモメ)



ヒドリガモ
地味な色ですがビューンビューンとよく鳴きすぐ分ります。冷たい北風にピッタリのような気がします。

- 11/11. ホッキョクグマが出産しました。マイクによる観察では複数頭生まれているものと思われまます。
- 11/13. マントヒビが1頭生まれました。ホッキョクグマの赤ちゃんの声、聞こえなくなりました。
- 11/14. ホッキョクグマの赤ちゃん2頭の死亡を確認しました。
- 11/14. ブラッザグエノンの子供が生まれました。
- 11/15. フラミンゴ池のフラミンゴの羽根の点検を行い、伸びている数羽は風切羽を切羽しました。
- 11/16. キーウィの体重測定を行いました。

- 11/18. シロハラ1羽とタヌキ1頭を保護しました。
- 11/19. 第55回動物のお話とスライドの会「裏側ウォッチング」を行いました。
- 夜の動物園見学会が開催され、ボランティア24名が動物たちの夜の生態を観察しました。
- 11/20. フタコブラクダ2頭に麻酔をかけ、脚のX線検査や採血して検査を行いました。
- 11/22. フランソワルトンが妊娠しているようです。
- 11/26. サル類の一斉検便を行いました。
- 11/27. ヨーロッパフラミンゴの翼の脱臼治療を行いました。

平田 嘉一

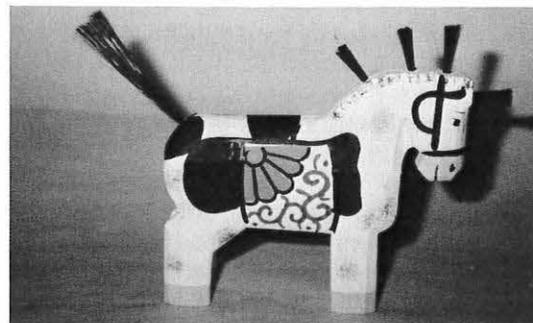
△「郷土玩具」とは、今日の観光地などで郷土玩具と称して売られているものとは違い、それぞれの土地で、その地の材料を使い各地の風俗習慣や年中行事に関連して発生したもので、江戸時代から明治、大正、昭和の長い時代に伝承されてきたものをいう。またその作者が高齢者であることと後継者が育たないことなどから、近い将来、日本の郷土玩具の存続すら危まれるのが現状である。さて、これらの玩具を種類別にみると、馬は、牛に次いで多く、全国各地で作られていることがわかる。

△江戸時代に馬に乗ることができたのは、身分の高い武士に限られており、農家では牛とともに馬は労働力として大切にされ、合戦にはもとより、かつては輸送などにも重要な役割を果たしていた。また馬は子供たちの人気のものであったことから郷土玩具のなかでも数多く作られている。

△さて、馬の郷土玩具には、飾り馬などのほか、武者人形、また明治期以降少年たちのあこがれの的であった馬のり軍人などの兵隊ものが多く見られる。さらに、竹の矢に馬の首をつけて、手綱を両手にまたがって遊ぶ春駒や、子供や女性が春駒をもって遊んだものを写した作品もみられる。材料も土、木、紙のほか、農村行事のワラ馬まである。

△三春駒（福島、三春）伝説によれば、坂上田村麿將軍の戦勝の因となった木馬が、そのまま今日に伝えられたとされている。この三春駒は、胸かけに大きな花模様が描かれ、たてがみと尾をピンと立て、たくましい脚をもった均整のとれた馬で、昭和29年の年賀切手の図案に郷土玩具の第1号として登場している。

△この三春駒形式のものに青森県八戸市櫛引八幡宮の祭礼で売られている八幡駒。宮城県仙台市の木下薬師の縁日に売られる木下駒があり、いづれも同形式で、この木馬は、鞍がけに菊花模様が描かれ、胸かけには素地に5本の白線が入り、単純粗野の形のなかにも馬産地みちのくらしい風情がただよい、東北の3名馬として有名である。



引前の馬コ

△弘前の馬コ（青森、弘前）八戸、三春、木下駒が、きわめて象徴的であるのに反し、弘前馬コは、きわめて写実的。しかしただの写実ではなくて、馬の動態をしっかりと把握し、独特の魅力を作り出している。色彩は赤と白の単純な構成で、ペルシャ模様を思わせるが、暗い感じの多い東北の玩具のなかで異彩を放っている。

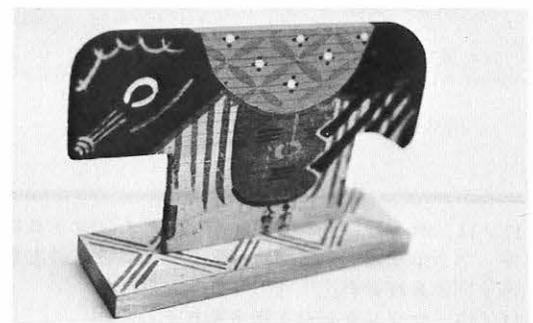
△山口人形（新潟、水原）新潟県内で作られる唯一

つの土人形で、貴重な存在である。馬ものとしては野馬、馬のり兵隊、玉のり馬がある。その一つ、馬のり馬というのは、馬が赤い玉の上に前脚をかけている。各地を巡業したサーカスの玉にのる馬の曲芸を表現している。秀作の一つである。



山口土人形玉のり馬

△手向山八幡宮の立絵馬（奈良）武勇で知られる応神天皇を祭神とする手向山八幡宮から授与されている立絵馬。馬の形に切った板に黒駒を描き、台座をつけた絵馬。古代には、雨ごいや晴天祈願に馬を神に献上する習わしがあった。降雨には黒馬を、晴天祈願には白馬を献上したが、馬は貴重な動物であるため、次第に木で作った馬で代用するようになり、さらに簡略化され絵に描いた馬を献上するようにな



奈良手向山八幡宮立絵馬

った。この立絵馬は絵馬の歴史の上でも貴重なものである。

△伏見人形の馬（京都）古都の伏見人形は最も古い歴史があり、稲荷大社のみやげとして、全国に広がり、各地の土人形に影響をあたえた日本の土偶の元祖だけあって馬の種類も多く、伏見だけでも相当な

数にのぼる。飾馬 伏見人形の代表的なもの。この飾馬は祝儀式にひき出されるさいの正装姿を表わしたもので、得意そうな表情がなんともいえない。5月の節句飾りに用いられ、昭和53年度の年賀切手の図案に採用されている。

神馬(しんめ)飾馬につぐ伏見人形の代表的なもの。群青色の腹帯をしめた馬。大型の作品は立髪に麻帯をつけ、別に耳をひねりで作りつけている。



伏見駒のり神馬

△古賀人形の馬（長崎）古賀人形は江戸時代から作り続けられている歴史の古い土人形。江戸時代長崎は唯一の開港地であったので、異国の風俗や物語が人形となって残されている。彩色は強い原色をもち、その表現も大胆である。馬のり猿 中国の伝説によるもの。昔、中国に伯楽という馬のよしあしをよくみわける人がいた。或日、一匹の猿が緑の丘ですばらしい野馬ののって遊んでいるのを見て、その馬がほしくてたまらなくなった。そこで悪だくみを考え、美しい木馬を作って猿の馬と交換を申し込んだ。猿は喜んで承知したが、伯楽が野馬にまたがって逃げ去った後で、まんまと計略にかかったことを知り、涙をのんで悲しんだという民話がある。この民話をもとに作ったもの。この型は文禄年間の古い型で、真赤な顔の猿が、キョトンとした目つきで、動かない白い木馬にしがみついている姿がよく表現されている。馬のりマリヤ これは切支丹(きりしたん)尼僧らしい女性が馬ののった姿で、郷土玩具としてはエキゾチックな感じがする。

△桐原のワラ馬（長野）ワラ馬は農家の豊作祈願や、子供の健やかな成長を祈願して作られ、各地の年中行事にみられる。毎年新しく作り、行事が終わると捨てたり、また焼き払ったりしてしまうものが多く、材質の関係もあって長年保存することは困難である。ワラ馬は全国各地で作られているが、なかでも傑作は、この桐原のワラ馬。その姿のりりしき、それに均整のよくとれた馬では、日本一であろう。毎年3月8日、長野市の桐原牧神社で祭礼が行われ、農家ではワラ馬を作り、その背に赤飯や餅、お賽銭をくりつけ農作や無病息災を祈願し神前に供える。この馬の特徴は、オス馬にシンボルがついていること

で、ワラ製のがきちんとして大地に向かって力強きのびている。

△芦屋八朔馬（福岡）八朔(はっさく)とは旧暦8月1日のこと。この日「八朔の祝い」をする習俗は西日本では盛んである。芦屋地方ではその年に誕生の子の家にワラ馬を親類などが贈る風習があり、ワラ馬には紙で作った武者をのせ、旗指物には英雄、豪傑の名を書いて立てる。

△浜松張子の飾馬（静岡）浜松市には、明治維新から続いている浜松張子がある。創始者は旧幕臣の三輪永保(みわひさやす)で、その技術は二代永智(ひさとも)、三代志乃(しよの) (昭和34年浜松市無形文化財)現在、四代、二橋加代子氏が唯一の作者として繊細



浜松飾馬

な技術を受け継いでいる。飾馬は今年から新しく発売の62円のお年玉くじ付き年賀切手の図案に採用された。

△八幡駒（青森、八戸）かつては旧暦の8月14、15日の両日の、八戸市、櫛引八幡宮の祭礼に売られたもの。この駒は流鏝馬(やぶさめうま)を模して作られたと伝えられ、一説によると白い点線は当地の嫁入りのさい盛装した馬の鈴ともいわれている。



青森八幡駒

この馬型は、昔、幕府から藩に贈ったといわれるペルシャ馬の特徴をよくとらえている。今年の年賀切手(41円)のデザインに採用された。

(郷土玩具蒐集家、
「近畿おもちゃ通信」編集発行人)

フェニックス自然動物園 竹下 完

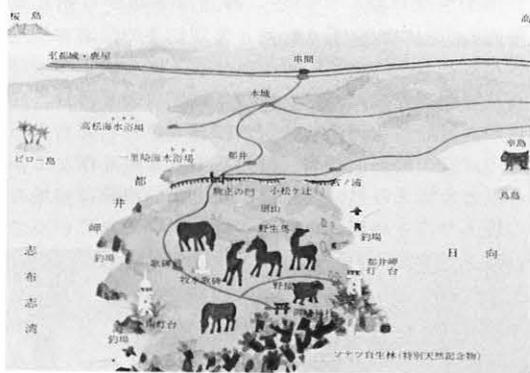
来年は午年、宮崎の野生馬を紹介してくれないかという手紙をもらった。私も宮崎に来て20年近くになるが、都井岬にはよく出かけるものの、はっきり云って、あまり岬馬については詳しくなかった。

そこで早速、私は都井岬に出かけることにした。12月というのに初夏のように暖かく、青く澄んだ空、紺碧のおだやかな海は沖合の黒潮まで水平線で結ばれていた。そんな日南海岸を気持ちよくドライブした。

宮崎を出て約2時間、文化ザルで有名な「幸島」が見えて来た。そこを通り過ぎると、ずっと広がった都井岬が目に入って来た。あそこに野生馬がいるのだなあと思うと胸がはずみ、車のスピードも早くなった。

都井岬は、宮崎県の最南端で太平洋へと東南に向かって4キロメートルも突出し、その面積も800ヘクタールと雄大な半島である。

都井岬のごあんない



その半島の付根のところから道は西回りして中央部へと曲っていたが、鈇肥杉林を抜けたところに広く開けた草場が広がり、そこに野生馬の一群が目に入って来た。私は思わず、車を止めると飛び出し、その馬たちを見入ってしまった。

縄文、弥生時代の貝塚から発見される馬、つまり日本在来馬は産業文化や軍事に利用されて来たが、明治以来こうして伝統を有し親しまれて来た在来馬も急激に減少し、現在はわずか、この岬馬と、トカラウマ、木曾馬、それに北海道の土産子と呼ばれる数少ないものとなってしまったということだ。しか

し、その御崎馬も日本在来馬といっても原産ではなく歴史時代大陸から渡来した蒙古野馬の系統ということだ。それにしても野生的に飼育されてきた馬ということ野生馬といわれている。

それではその御崎馬の歴史を見ると、今から270年程前、高鍋藩の第四代藩主(元禄10年)秋月家が、この地に飛び領地として牧場を開き軍馬増殖のために野に放したのが始まりとされている。それ以来、この馬は粗食に耐え、風雨に耐え、強健で病気に強い野生馬が出来上った。その先祖が今も引きつがれてきているのだということだ。

1948年、この御崎馬に目をつけられ、初めてその生態を調査されたのが当時京都大学の今西錦司博士等だった。何日も山に入られそれぞれの馬の個体識別をされその行動を調べられたが、これが日本の動物生態学の始まりともされており、その記録は日本動物記として発表された。

さて、御崎馬は一般には普通2〜3頭、あるいは、5〜6頭が群れを作り生活しているが、夏は、早朝



草を食べる御崎馬(ミサキウマ)

麓に現われ、だんだんと気温が上がるにつれて、山の斜面を草を食べながら少しずつ山頂へと登って行く。そして、山頂の風とおしのよい広場までくると、だんだんと群れが集って大群となり、そこでみんなが休息をとる。そんな状態を「のだち」というのだそう。そして、2、3時間すぎると、それぞれ群れは別れ、山頂を下っていく。そして中腹の水飲み場に着くと水を飲む。こんな時、馬は急斜面をかけずり下



水飲み場集ってくる

りるのでなく、等高線にそってゆっくりと横に歩いて移動する。そのため山は斜面にいく筋もの階段状の馬道が出来来る。その道も春になると草がのび速くから見るととてもきれいなアミメ模様になる。これを「あおめ」と云って放牧地独特の景観で美しく楽し



観光客に近づいて来てエサをねだる

めるらしい。また、冬は、馬の群れも麓の植林地や谷間や海岸の風のあたらないところを探して冬を越す。しかし、ここは、草原と違ってけわしい急斜面が多いので、よく転落して死亡したり、車と衝突したりすることも多いらしい。つまりこの野生馬たちも季節によって行動が違うが、だいたい一日の行動は、約16時間が草を食べる採食時間であとの5時間が休息、そして、次々と渡り歩く移動時間が2時間ばかり、それに水飲み、体のダニ取り、排糞、排尿などに1時間程が使われているということだ。それに5月が出産期になるらしい。

この御崎馬には290年以上の歴史があり、その間人

手を離れて自然のもので、生れ、育ち、死ぬという自然のきびしいもて生きてきた。昭和28年に国の天然記念物に指定され種の保存のためということで今では牧組合の手厚い管理下におかれているが、ただ生活は今でも同じで自然放飼のままの野生馬として管理されている。しかし、健康管理として、駆虫やダニ取り、それに計画繁殖や血統保存が中心となり宮崎大学の先生たちによって管理されている。

そんな中で、こんな話を聞かされた。それは、数年前のことだったが1頭のメス馬に赤ちゃんが産まれたがそれから数ヶ月した頃、その母親は突然目の病気にかかってしまった。はじめは片方だけだったが、だんだんと両目も視力がおとろえ人が近づいても気付かない程悪化していった。それでも母馬は子馬を育てるのに必死だった。幸い子馬も大きくなり乳を放れ一人立ちをするようになった。しかし、その頃には母馬は完全な失明となって、自分だけでは一歩も歩けない状態だった。そんな時子馬は母親の体にすりつけるようにして道を教え危険な崖にいくと自分が立ちふさがって止める。そして母親を草のあるところへ連れていくという親子の愛情物語が見られたそうだ。ところが、冬がきてだんだんと草がなくなってくると親馬には食べ物を見つけることはむずかしくなった。自然に飼うことを方針にしている管理人もこの情にほだされ母親を仮柵の中に入れて特別に飼うことになった。ところが春になっておどろいたことが起った。それは管理人も知らないうちに、目の見えない馬が妊娠していたのだ。そして、赤ん坊が産まれたが、目の見えない母親には子育ては大変だった。一生懸命お乳を飲ませるが食べ物を充分食べられない親馬のお乳は出なくなってしまう。そして、子馬もとうとう栄養失調で死んでしまった。そして母親も子を追うようにして間もなく死んだという話を聞いた。そうした馬親子の話に私は感動したが、今も目の前で「のびり」と草を食べているこれらの馬たちも、この地でいつまでも生きつづけてほしいと思った。現在96頭いるということだったが、これから厳しくなる冬期を迎え彼等の健康を祈って都井岬をあとにした。

§ 動物病院は大騒ぎ

去年はタヌキの当たり年?などと思うぐらい例年になく保護されて来るタヌキが多かったようです。去年1年間で10頭、うち交通事故によると考えられる骨折をしているのが3頭もいました。

その原因のひとつと考えられるのは、やはり山林の乱開発でしょう。近年の地価の高騰により、住宅地はどんどん山の中へ侵入しています。自分たちの住居を追われたタヌキ達は行き場を失い、必然的に人里に現われるようになります。そこで人間と第一種接近遭遇するのです。

タヌキは割に人なつくよく慣れるので、人はついつい手をかけたくなります。先日もある新興住宅地に住む人から、「最近、自宅付近にタヌキが現れるようになった。おなかを空いているようなので、餌を与えようと思うが、どんな餌を与えたらいいのかわ」という相談を受けました。でも、餌を与えてはいけません。餌を貰い、次第に人に慣れてくると次にはゴミ箱や田畑を荒らすようになります。そして害獣の烙印を押されるのです。

人に慣れてくると今度は、車社会と出会い(第二種接近遭遇)、交通事故に遭遇します(第三種接近遭遇)。そして、第四種接近遭遇、動物病院行きです。病院に連れて行かれ治療を受け、自然に帰れるようになればいいのですが、そのまま死という世界に遭遇する不幸なタヌキもいます。迷惑しているのは人間ではなく、タヌキの方なのです。

怪我をしているのならともかく、そうでなければ身近に現れたタヌキには手を出さず、タヌキの住む環境を守ってやるべきです。



交通事故で骨折、ギブスも痛々しいタヌキ君。でも、今年の春には退院できそうです。

§ 話は変わりますが、オオミズナギドリって知っていますか? ミズナギドリ目ミズナギドリ科に属し、アホウドリに体型がよく似た鳥です。毎年6月頃日本、黄海、台湾沿岸の離島で卵を産みます。孵

化した雛は10~12月頃島を離れ、先に飛び立った親鳥達を追って東シナ海から日本の南方海域へ移動し冬を越します。



保護されたオオミズナギドリ

一般的には、カモメやウミネコとよく間違われるようですが、カモメやウミネコと違って、嘴と足の色は肌色、体の上面はほぼ暗褐色、下面は全般に白色、額は白く頭上から頸にかけて白い斑点が散在しています。また、体型は水掻きのついた短い足と細くて長い翼が特徴です。

体型からわかるように、地上から飛び立つことができず、斜めにのびた木の枝や高い岩場によじ登り飛び立ちます。海面から飛び立つ時は翼を広げ、羽ばたくと同時に足で水面を蹴って風上に走り、波頭で飛び立ちます。

移動の時期、町中を若いオオミズナギドリがトボトボ歩いていることがあります。歩くことが苦手なこの鳥は、一見足を怪我しているようにも見えますが、実際には怪我をしているものはほとんどいません。でも、去年の秋から初冬にかけて当動物園に11羽も保護されてきました。

保護されて動物園につれて来られるまでは、ほとんど何も食べておらずかなり衰弱しています。動物園での食事はあまりお気に召さないのか甘えん坊なのか、自分では食べようとしないので、残酷なようですが無理やり口を開けてコアジを押し込みます。こうして体力を回復した幼鳥を大阪湾まで運んで行き、高い橋の上から放鳥します。放鳥したオオミズナギドリは海風を翼にうけ、まるで大空を滑空するグライダーのように飛んでゆき、やがて視界から消えて行きました。

もし、町でトボトボ歩いている鳥を見つけたら、ちょっと寒いのを我慢して冬の海まで放鳥しに行ってみませんか。

(飼育課:竹田 正人)

§ レッサーパンダ・クロトキ来園

11月6日に中国の上海動物園との第7次動物交換で、レッサーパンダ1番とクロトキ4羽が来園しました。

上海動物園の顧金根副園長を団長とする4名の動物交流団の方々が来日され、11月14日までの滞在期間中に飼育技術交流会などの交流事業や各地の動物園見学などをされました。

11月8日、午前10時から新築されたレッサーパンダ舎の前で動物贈呈式を行い、一般公開しました。その後、場所をバードケージ「鳥の楽園」に移し、クロトキの引き渡しを受け、係員が放鳥しました。

来園したレッサーパンダは、オスが1985年6月25日、上海動物園生まれ、メスは1982年6月29日、西部動物園生まれです。共に新しい環境にもすぐに慣れ、柿、バナナ、リンゴ、パン、牛乳などの餌の他、竹の葉もよく食べています。

一方、クロトキはいずれも1989年3月に上海動物園で生まれたもので、こちらも新しい環境にすぐに慣れ、「鳥の楽園」の鳥たちの仲間入りをしました。

また、レッサーパンダの愛称募集を一般公開の11月8日から12月3日まで行ない審査の結果オスが「シャラン」にメスが「ハイハイ」に決定しました。決定した名前に投票された方々の中から抽選で25名の方々に動物のヌイグルミを贈りました。

§ サル舎は出産ラッシュ

11月13日にはマントビビの赤ちゃんが、翌14日にはブラッサグエノンの赤ちゃんが生まれました。今季サル舎では、4月2日のフサオマキザル、4月4日のカニクイザル、ブタオザル、7月17日のサバンナモンキーが生まれており、大にぎわいとなりました。

ブラッサグエノンはオス、メス共に昭和56年5月に来園し、昭和60年9月と昭和61年10月に出産していますが、いずれも出産当日に死亡しており、今回初めて順調に子育てをしています。

§ 写真コンクール入賞者決まる。"秋の動物園まつり"の一環として行った第5回

現在の飼育動物数 (平成元年11月30日現在)

哺乳類	12目	103種	461点
鳥類	20目	185種	701点
爬虫類	3目	34種	82点
合計	35目	322種	1244点

天王寺動物園写真コンクールの審査会を11月8日に動物写真家の内山巖氏をお招きして行いました。137点の応募作品の中から市長賞には淀川区の河井たき子さんのヒョウ親子3頭の「ファミリー」、建設局長賞には堺市の辰野邦次さんのフラミンゴの「フェイス」、動物園長賞には生野区の南田哲哉さんの「丹頂の情愛」、動物園協会賞には生野区満田司さんのゾウの水あびを撮した「シャワー」が、その他10点の入選作品、15点の佳作が決定しました。11月12日にはレクチャールームで表彰式を行い、入選作品は11月12日から12月3日まで北園展示館で展示しました。



河井たき子さんの市長賞受賞作品

§ 動物園裏側ウォッチング

動物園では毎月1回、一般入園者を対象に「動物のお話とスライドの会」を実施していますが、昨年の11月は初めての試みとして「動物園裏側ウォッチング」を行ない、普段見ることのできない動物舎の寝室や管理施設を見てくださいました。

午後1時から43名の参加者を2組に分け、約2時間かけて、ゾウ舎、ユウカリ見本園、カモシカ園、サイ舎、トラ舎、は虫類舎、調理場、動物病院、ボイラー室、キジ舎をまわり、それぞれの場所で担当者が説明しました。たいへん好評でしたので、また機会があれば実施したいと思っています。

● お知らせ

動物のお話とスライドの会
1月2日(火) 動物映画会
1月3日(水) 動物映画会
1月21日(日) 馬のお話
時間:午後1時~2時
場所:北園レクチャールーム

● テレフォンサービス実施中

催し物、トビックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を24時間テレフォンサービスで行っています。毎月内容が変わりますのでご利用ください。
電話番号 771-9999

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日(休日の場合は翌日)です。1月の休園日は1月16日(火)です。年末年始は、12月29日(金)~1月1日(月)まで休園いたします。なお、近々毎週月曜日が休園日になる予定です。開園時間は、午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売り止めになります。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしと かいかた

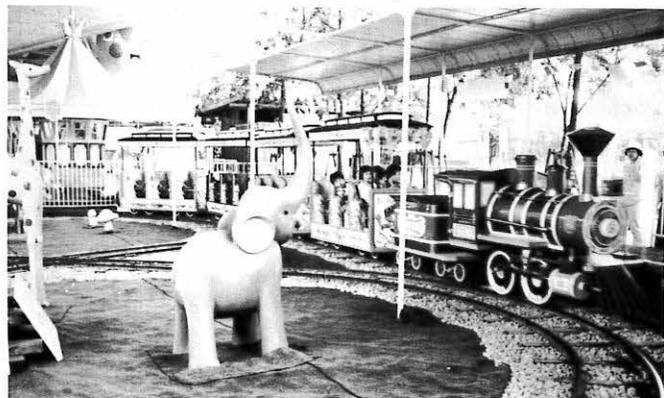
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしと かいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりもの、があります。

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです



かすの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

平岩米吉著

絶賛三版

猫の歴史と奇話

(定価・2800円)
(送料・310円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

第一章 猫の歴史

欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで

第三章 猫の報恩談

蛇を咬んだり、金を運んだりする

第五章 猫の奇話(上)

長命、多産、三毛猫などの形態の奇話

第七章 猫の奇話(下)

マタビを媚薬とする奇妙な習性など

第二章 猫股伝説

老猫化けてさまざまな怪異をなす

第四章 野性猫の存在

裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など

第六章 猫の奇話(中)

長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動

第八章 益獣としての猫

あらゆる角度から猫の生態と効用を探究

発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425

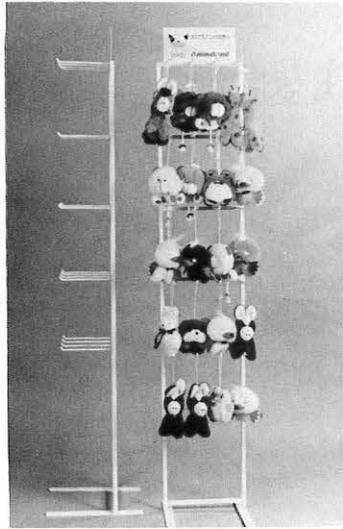
- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800 (50度用)



大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

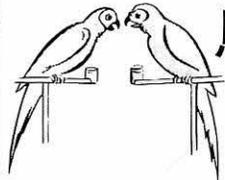


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

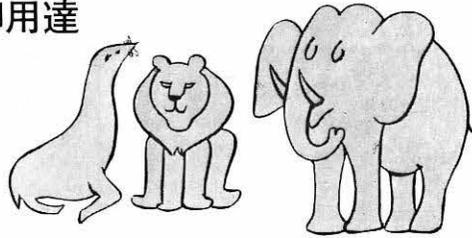
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

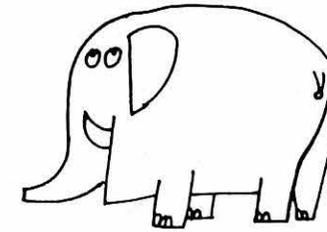
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内

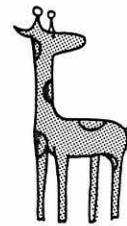


南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしく願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444



唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー
とってもゼリー



野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問い合わせは——
社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1990年1月10日発行(毎月10日発行)第26巻 第1号 (通巻293号)

編集/大阪市天王寺動物園
発行人/大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎
印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共) 振替口座 大阪 3 7 8 2 3
〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74
電話 大阪 (06) 771-0201
編集委員 (伊東重朗/藤野勝吉/中山良三郎/樽本 勲/中川哲男/齊田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)
(森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/赤松 建/中垣圭史/大川光雄/山下賢二/土谷正道)